

「生涯なんもしない相方」

—初稿—

2025/12/3
しののめ ののの

＼人物表／

坂井 光也 (35)

お笑い芸人

細川 正伸 (35)

坂井の相方

小平 平介 (38)

坂井と細川の芸人仲間

広野 慎太 (45)

坂井と細川のマネージャー

TV局・収録スタジオ（朝）

派手なセットが組まれたスタジオ。

バラエティ番組の収録が行われており、ひな壇に芸人やタレントたちが数人座っている。彼らの視線の先には司会者。

坂井光也（35）、相方の細川正伸（35）と並んで座っている。

坂井、細川を指しながら声を張る。

「ほんとに相方が無能なんですよ。何にもしない。何にもできないんですよ」

「ほんとに？ 坂井が厳しすぎるだけじゃないの？」
「ほんとですって。仕事の量も俺と全然違うし。レンタルなんもしない人の方がまだなんかしてますって」

「つて言われてるけど、どう？ 細川的には」「ああ、はい、まあ……そうですね」

「ほら」覧の通り。返しの一つもろくにできない

スタジオで笑いが起きる。

坂井、大袈裟に呆れたような表情をキープ。
細川、ヘラヘラしている。

TV局・楽屋（昼）

収録を終えた芸人たち、楽屋に入つてくる。

数人の男性芸人の中に、坂井と細川も混じっている。
坂井、自分のリュックに近づき、軽く息を吐く。

そこから高速で着替え始める。

芸人仲間の小平平介（38）が声を掛けてくる。

「この後飲むけど、来る？」

「昼間つから飲むなよ。俺、夜まで仕事」

「流石だね」。（細川に向かって）細川も？

離れた場所で着替えていた細川、ヘラヘラと返答。

「いや俺は空いてる」

「さうすが細川。今日もノリノリだったしね」

坂井、着替ながらも咄嗟に反応する。

「いやどこがだよ。何一つ生み出してないだろ」

坂井

小平
坂井

細川

小平

坂井

細川 「まあまあ」

「ほら。さつきと同じ弄りされてんのにまだ返し考えてねえの。てかずーつとそう。中学ん時からずつと」「とか言つて～」

「いや、とか言つて～とかは無い。からの～？ は無い」「ですが～？」

「今回に限り～？ ではない。永遠に無価値。最初っから粗悪品」

小平、笑いながら離れていく。

高速で着替えを終えた坂井、だらだらと着替えている細川のもとへ。

坂井 「じゃあ俺いくわ。新ネタ入れとけよ」

細川 「はいよー」

坂井 「あんま飲むなよ。調子乗んなよ」

細川 「はいはーい」

坂井、気のない返事に呆れた様子で樂屋を出る。

小平が他の出演者たちを飲みに誘っている。

3. 別のＴＶ局・収録スタジオ（昼）

坂井、別のスタジオでも熱心にトークをしている。

坂井 「ほんと使えないんすよアイツ。今度この番組で詰めてやつてくださいよ。だつてこないだの現場でも――」

4. 別のＴＶ局・収録スタジオ（昼）

坂井、電気椅子で全力のリアクション。

坂井 「痛い痛い痛い痛い。何で俺がこんな目に遭わなきやいけないんですか。こういうのは相方にやらせてくださいよ」

5. 別のＴＶ局・収録スタジオ（夕）

坂井、情報系バラエティでスイーツを試食している。

坂井 「うわーこれは美味え。外はサクサク、中もサクサク――」

6. 別のＴＶ局・関係者出入口（夜）

坂井、他のタレントに紛れてＴＶ局から出てくる。

共演者1 「おつかれしたー」

共演者2 「坂井さん、飲み行きます？」

坂井 「いやごめん無理だわ。明日5時起き」

共演者2 「相変わらず忙しく。おつかれっすー」

坂井 「ういー」

坂井、賑やかに去っていく共演者たちを見送る。

疲れた表情で息を吐き、足早にタクシーへ乗り込む。

7. タクシー内（夜）

坂井、バラエティ番組の台本を読み込んでいる。

不意に電話が掛かってくる。

坂井、怪訝な表情を浮かべ、電話に出る。

坂井 「……お疲れ様ですー」

広野の声 「お疲れ。今大丈夫？」

坂井 「大丈夫ですけど……どうしたんすかこんな時間に」

広野の声 「坂井くん、あのさ……大変なことになっちゃった」

坂井 「え？」

8. 総合病院・個室（夜）

坂井と広野慎太（45）、足早に病室へ入る。

頭に包帯が巻かれた細川が横たわっている。

「すんませえん」

「何やつてんだよお前」

「飲んでる時に小平さんの悪ノリがエスカレートして、女の子が小平さんを突き飛ばしたらしい」

「あのクソボケほんっとマジで」

「で、突き飛ばされた小平さんが細川くんにぶつかって」

「そんで頭打ったの？」

「うん」

坂井、大きくため息。

「軽い脳震盪らしいんだけど、一応入院つてことで」

「まじかあ……」

「仕事への影響は……あんまり無いんだけど」

「仕事 자체が無いからねえ」

細川

広野

坂井

広野

坂井

細川

坂井

広野

坂井

広野

坂井

細川

坂井

広野

坂井

広野

坂井

細川

9.

ラジオブース（夜）

坂井と細川、ラジオを収録している。

「という訳で、2週間ぶりの登場です」

細川 「えーこの度は皆様、ご心配をお掛けし、申し訳ございませんでした」

坂井 「ほんとだよ。なんだよ突き飛ばされた奴に突き飛ばされるって。なんでビリヤード方式なんだよ」

細川 「確かに」

坂井 「そんで一人だけ入院。バカすぎんだろう」

細川 「返す言葉もございません」

細川 「いつもろくに返してねえだろ。てかお前ってほんとに何にもしねえよな。悪ノリが悪化してたなら止めろよ」

細川 「何にもできなかつた。止めもせず、盛り上げもせず」

坂井 「情けねえよほんと。そんで何もしてないお前だけが脳震盪。何もしなさすぎてバチが当たつたんだな」

細川 「同席した女性がちょっと困つてたので、止めに入るべきでした。本当に申し訳ございませんでした」

坂井 「ほんとにな。反省しろよ。あと小平もな。あのバカ。あいつは余計なことばつかすんだよ逆に」

細川 「全くもつて仰る通りです……」

10. タクシー内（夜）

坂井と細川、無言で座っている。

坂井はスマホを弄つている。

細川 「……ほんとに、すまんかった」

坂井 「いや別に良いよ」

坂井、全く気にしていない様子。

細川 「……そう言うと思った」

坂井 「なら謝んなよ」

細川 「でも流石にこれは」

坂井 「別に良いつて」

広野 「ただ、明後日のラジオは厳しいね」

坂井 「……」

細川 「……なんで？」

坂井、少し驚いた様子で細川を見る。

「なんでって、何が」

「なんで怒らねえの？ 仕事にも穴開けたのに」

「もともとスカスカだつただろ」

「そういう問題じやねえだろ。あーーもう……」

細川、苦悶の表情。

「お前おかしいって。人前ではめちゃくちゃ俺のこと貶すくせに」

坂井 「そういう芸だろ。ただの」

坂井 「そりだけど、裏でももうちょい言えよ」

坂井 「なんでだよ。なんで怒られたがつてんだよ」

坂井 「怒るべきところでは怒った方が良いつて」

坂井 「やだよめんどくさい」

坂井 「めんどくさいとか言うな。俺を諦めるな」

坂井 「別に諦めてねえって。なんで俺が怒られてんの」

坂井 「お前が俺に甘すぎるからだよ。俺なんかほんとに何もで

きないし……なのに余計なことで足引っ張つて……」

「え、お前それ……ほんとに気にしてんの？」

細川、しかめっ面で頷く。

坂井、ぽかんとした表情。

坂井 「……何を今更？」

坂井 「いや、だつて……」

坂井 「できない、やらないのが仕事だろ。お前の」

坂井 「そりだけど……それにしてもどいうか……」

坂井 「しょうがねえだろ。俺がお前のこと誘つたんだから……」

坂井 「お前があんまり稼げてないのは申し訳ないけど

沈黙が訪れる。

細川 「……飲み行くか。久々に」

坂井 「やだよ気持ち悪い。俺明日4時起きだし」

細川 「早え……」

夜の街道を、タクシーが走り去っていく。